

パネルディスカッション1  
ICTを活用したことばの教育—子どもへの日本語・教科学習支援における実践的展開から

## 実践例2 地域支援教室におけるオンライン支援の可能性

### —オンラインによる日本語学習支援の仕組みと方法—

田所希衣子（外国人の子ども・サポートの会）

#### 1. 対面からオンラインの学習サポートへ状況変化

2005年設立以来生徒会員とサポーター会員の1対1の学習サポートを行ってきたが、コロナ感染拡大のために、学校の休業と同時に活動場所が閉館となった。生徒会員の保護者に聞き取りを行った結果2割近くの家庭で子ども用のPC、スマホがないためにオンラインができないことが分かった。そして、その子どもたちと学習が遅れがちな子どもたちが重なっていたことから、当会では毎年作成している「サポートプラン2020」の内容を状況に合わせて組み立て直した。

子どもは来日後日本語学習をしている期間に教科学習が十分にできない。復習が必要な部分がどこかを見つけることが常々学習サポートの課題となっていた。それを解決するために小学1年から中学3年までの算数・数学の復習教材（市販教材）のコピーの許可を出版社から得て、小学生と中学生の生徒会員と、サポーター会員との間で郵便で教材をやりとりする学習サポートをベースにした。さらにオンラインの学習が可能な子どもはサポーターと画面を通して試行錯誤を続け、学習に役立つサイトを検索していっしょに見たり、プリントの問題を写真で画像にして送り、初めてのZOOMやLINEを短期間に使いこなした。以前はあり得なかったが岩手県、石川県、神奈川県からも学生サポーターが活動に参加した。他県に転居した生徒が学習を続けることもできた。

国内だけでなく、外国からの入国制限が始まったために出身国に一時帰国して日本に戻れなくなった家族や、初めての来日のめどが立たなくなった家族とは、その後半年間オンラインの学習サポートが続いた。また、出身国の学校の休暇を利用して日本にいる親を尋ねてきて、国に戻れなくなった子どもたちもいた。この生徒たちは、逆に母国の学校のオンライン授業を受けていた。しかし、結局何人かは国に戻ることをやめ日本で高校進学を決心した。このようにオンラインがあったことで子どもたちは学習を途切れることなく続けることができた。また、インターネット上のフォルダを利用してファイルを共有することができたので、日本語教材を手に入れられない国にいる子どもに教材を送ることができた。学校の担任の先生から預かったプリントをPDFにしてフォルダに入れて送ることもできた。

帰国した生徒や第三国に行った生徒とEmailで連絡をとり合っていたが、オンラインでミーティングをすることもできるようになった。日本で高校受験をするか、別の国に行くか迷っていたネパール出身の生徒はアメリカとオーストラリアにいる外国籍の先輩たちからアドバイスを受けることができた。その生徒はアメリカの通信教育のサイトを教えてもらい、英語で物理の学習を続けている。

生徒の学習だけでなく、サポーターのための勉強会や研修会にもオンラインは欠かせない。

#### 2. オンライン学習サポート活動の実践

##### 2.1 「サポートプラン2020、2021、2022」の概要

最初の2年間はオンラインに頼らざるを得なかったが、2021年末から人数制限をしながら対面の活動が少しずつ始まり、2022年は新規に登録する生徒会員は対面の学習を希望している。

- ①学習サポート活動：郵便による復習用プリント教材と、オンラインによる1対1の学習サポート  
一時帰国した子ども、来日前の子どものオンライン学習サポート  
中学卒業後に来日した生徒、高校生のチームでのオンライン学習サポート
- ②運営のための活動：毎月のサポーターのためのオンライン公開勉強会、公開研修会  
会議、打ち合わせ、情報交換のオンラインミーティング  
サポーター会員のオンラインオリエンテーション  
生徒会員と家族との面談
- ③コロナ対応助成金による支援活動：生徒会員、サポーター会員用の郵便の切手代、コピー代など  
生徒会員、サポーター会員用の教材購入  
生徒会員一人親家庭への食糧支援

## 2.2 オンラインの学習サポート活動の方法

- ①事務局でZOOMアカウントを2つ準備し、ミーティング、研修、オリエンテーションなどを行う。  
各サポーター会員が自分のアカウントで生徒会員と1対1の学習をする。
- ②学習で「画面共有」などに使用する教材をHPとインターネット上のフォルダに用意する。
- ③コーディネーターがZOOMの使用方法をサポーター会員と生徒会員と確認する。
- ④必要な教材を郵送する。
  - ・ベースになるプリント復習教材を生徒会員とサポーター会員の双方に郵送する。添削用なので切手と封筒も同封する。(助成金で通信費を予算化)
  - ・その他、日本語レベルに合わせた教材、分数の復習教材、高校受験用の教科別の教材などを生徒会員とサポーター会員に郵送する。
  - ・サポーター会員には必要な教科書を郵送する。

## 3. オンラインの学習サポートのメリットと可能性

お互いの距離が離れていても学習の場が共有できる。移動がないので時間を有効に使える。スケジュールの変更をお互いに調整しやすい。などの<便利さ>のほかに、対面の学習サポートではできない<学習の質を高める>可能性も見えた。

- ①オンラインの機能を利用し学習の質を高める
  - ・Line を利用し、サポーターが国語の音読を「録音」して送信し、生徒が時間があるときにそれを聞きながら音読練習をする。
  - ・学習に役立つサイトを「画面共有」で検索して、詳しく調べたり動画を見る。
  - ・ZOOMの「ファイル送信」機能で必要な資料をその場で送る。
  - ・テーマについて調べる学習が苦手な生徒が、「画面共有」で入力、検索、情報の選び方、調べたことをまとめる作業をいっしょに体験できる。
  - ・ZOOMの「接続時間」の表示を利用しタイマーの代わりにして、制限時間を決めモチベーションを上げる。
  - ・地理や歴史について10分程度のゲームのサイトで気分転換をする。
- ②オンラインの特性を利用し学習の質を高める
  - ・話し手の話に集中する。画面にある教材に集中する。
  - ・家族と話す時間がとれて信頼関係が築ける。わからない日本語を家族が母語で説明してくれる。

## 4. オンラインの学習サポートの課題

- ・<不便さ>お互いの目が合わない。生徒の手元が見えないために計算過程や漢字の確認ができない。小さいミスや、文のおかしいところを見つけられない。宿題など生徒だけが持っている教材は、こちらから見にくい。生徒のスマホの画面が小さいと見にくい。生徒が「わからない。」と言うとき、どこがわからないか確認しにくい。
  - ・<支障>家族がいる居間でZOOMで勉強をしていると、家族も勉強に入ってくる。低学年だと、集中力を保つのが難しい。スマホをいじり始めると止められない。生徒が画面の向こうで何をしているのかわからないときがある。生徒が画面に顔が映らない位置で勉強をするときがある。
  - ・<機能がうまく働かない>マイクがオンにならない。画面がフリーズする。インターネットの接続が不安定になる。など
  - ・また生徒と家族との面談は対面を希望するが多かった。小学生の場合は、いっしょに勉強するサポーター会員と対面で1回会った後でオンライン学習に移行するのがやりやすいこともわかった。
  - ・対面の学習からオンラインに移行した場合と、最初からオンラインの学習を始めた場合の違いも見えた。
    - 相手に対面で知っているか否かでコミュニケーションのとりやすさに違いがある。
    - 「対面でできたことをオンラインでどう実現するか」を考えると、何をどう工夫するかがわかる。
    - 生徒の特長を知っていると、教材の進め方を考えることができる。
- コロナのおかげと言ってもいいかもしれない、学習サポートの場でも便利で使いやすい機能の開発で日々不可能が可能になっている。今はオンラインも対面も選べるようになった。忘れてはならないことは、対象の子どもの学びを第一に考えることを大切にしたい。